

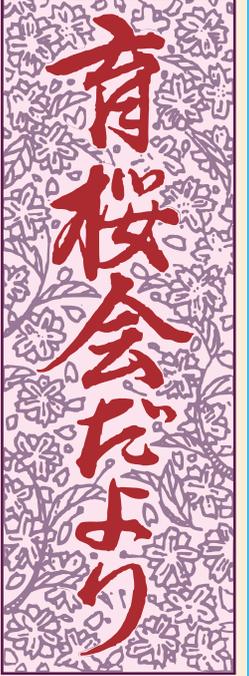
附中時代の思い出

奈良県立医科大学 名誉教授 吉岡 章
3年間担任(和田達之助先生)と級友はずっと一緒に、これが今でも親しく付き合える所以です。HR代表や生徒会長に選ばれ、柔道にも打ち込み、市体の個人戦で優勝しました。直後に母が脳腫瘍で亡くなり、その辛さ、空虚感から立ち直った時、医師になろうと決心していました。



育桜会だよりは、1985年(昭和60)12月に第1号が発行され、今号で100号を迎えました。100号の節目に卒業生、そして保護者の皆様から思い出をお聞きしました。これまでの育桜会だよりと共に、学校創立70周年の歩みを写真で振り返ります。

祝 第100号



第100号 平成29年12月19日

発行 奈良教育大学 附属中学校 育桜会
編集 広報部
印刷 (有)山田印刷

第1号は見つかりませんでした。4号が残っていました。生徒へのアンケート、保護者の方からの寄稿があり、子どもとの関わりについて意見が交わされています。

4号

私が在学していた頃の宿泊行事は、1年生は都祁の吐山で野外活動、2年生は福井の小浜で臨海実習、3年生は信州方面への修学旅行でした。「附中生は行事で育つ」の言葉どおり、生徒主体の行事での学びは広く深く、かけがえのない財産になりました。卒業生 吉岡睦美先生



附中は行事が多く、子どもたちが発表する場が多かったので毎回楽しみにしていました。宿泊行事報告会、文化のつどいの発表など学年が上がるにつれ内容も濃く、発表する姿も堂々と立派になっていく姿を見て成長を感じられました。卒業生 保護者

中学生とおとうさん. A survey report with charts and text about the relationship between middle school students and their fathers.

お世話になってます. A large tree graphic with many small photos of people, representing a community or alumni network.

9号では先生紹介をしています。知っている先生もいるかも?

9号

こんなことを思っています. A survey report titled '親の気持ち・子の気持ち' (Parents' feelings, Children's feelings) with various charts and text.

27号

27号では『親の気持ち・子の気持ち』が特集されています。20年以上経っても変わらない親・子の思いがありました。

27年前の体育大会は附中のグラウンドで行われていました。当時は2年から3年へのクラス替えがなく、砂ぼこりが舞う中、前年度の悔しさをバネに精一杯声を張り上げて応援があったことが何よりも思い出です。卒業生 吉田寛先生



長女の在学中に創立50周年を迎え、その年のバザーで買ったレモンパームが今も庭にあります。文化部の役員をしていた時、タイ料理教室を開催しました。秋には布引ハーブ園へバスをチャーターして行きました。準備などいろいろ大変でしたが、珍しい料理、少し遠出した社会見学は、皆さんに喜んでいただき嬉しかったのを覚えています。卒業生 保護者



2年生の文化のつどいで、バンドを組んで出演した息子は、思いのほか評判が良く、気を良くしたのが、現在は大学でヴォーカルの勉強をしています。当時、学年委員長をさせていただいていた私は、周りのお母さんたちから『〇〇君、カッコ良かったよ!!』とたくさん声をかけていただき、自分のことのようにうれしかったことを覚えています。卒業生 保護者

“こんなことをするのか” 想像を超えたことが授業や学校生活の中で起こっていました。梓にとらわれない授業・人がたくさんあった、いたことが印象に残っています。そんな授業をこの附中で行ってみたいです。卒業生 山本浩大先生

先生とよく話をしたことが心に残っています。私は真面目とは言い難い生徒でしたが、何かしら気にかけてくださった先生方の表情をよく覚えています。小学校にはなかった「居場所」というものを実感できたのが中学校でした。卒業生 若森達也先生

72号. A survey report with various charts and text.

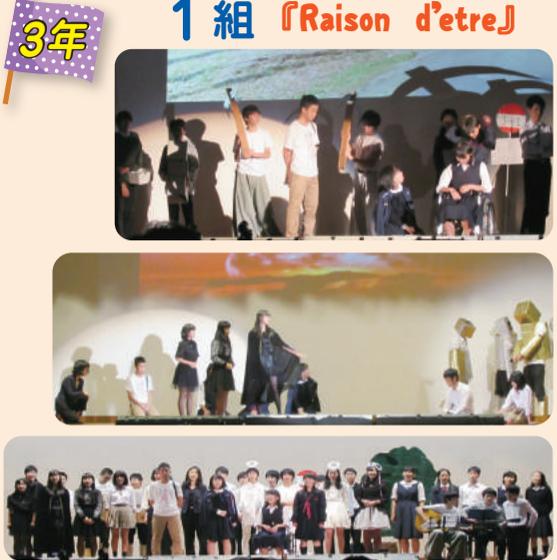


72号からカラー印刷での発行となり、現在もそのレイアウトを引き継いでいます。

100号記念の記事を書いている中で、卒業生の方、保護者の皆様も附中での思い出をとっても大切にされていることを感じました。過去の育桜会だよりを見ると、アンケートや保護者からの寄稿などがあり、家庭と学校が積極的に関わりをもっていたことが分かります。これからも、家庭と学校の架け橋、親と子のコミュニケーションのきっかけとなる「育桜会だより」でありたいと思います。感想をお聞かせいただければ、広報部としてもうれしいです。



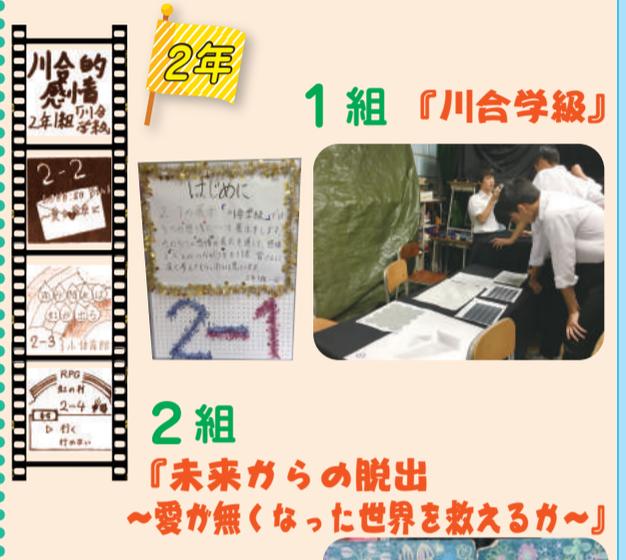
『育桜会だより』第100号の発行に思う 副校長 谷口尚之
創立70周年を記念して作成された「附中のあゆみ年表」をみると、『育桜会だより』第1号の発行は1985(昭和60)年12月とあります。私事で恐縮ですが、その前年、私は25歳で公立中から附中に転任し、翌85年は私が附中で初めて担任を持った年でした。その子らも今や40代後半になり、それぞれの立場で社会の一翼を立派に担ってくれています。今年、記念すべき第100号の発行を在職中にみる事ができ、感謝すると共に、これまで発行に関わっていただきました歴代の育桜会広報部や本部役員の皆様へ衷心より感謝申し上げます。毎号の『育桜会だより』には、その時どきの育桜会長や校長、副校長の思いが綴られ、各学年の宿泊行事や文化のつどい、体育大会(スポーツデー)など、様々な学校行事で活躍する子どもたちの姿が掲載されています。その意味からも、『育桜会だより』は附中の歴史の貴重な記録であり、証人であると思います。これからも第200号、第300号と歴史が引き継がれていくことを祈念し、掲筆いたします。



**文化のつどい**

10月16日(月)  
17日(火)

**「ColorFull Garden」**  
～個性の花束～



小雨の中開催された今年の文化のつどい。雨にも負けない素晴らしい発表でした。今年度は、生徒会の方針「創咲」に沿ったテーマで開催されました。

1年生は「合唱」、2年生は「展示発表」、3年生は「劇」を通じ、ひとりひとりが、個性、かたち、がんばりを作り上げ、表現してくれました。そして、ひとりひとりの小さな力が大きな花として咲いた素晴らしい文化のつどいとなりました。



**編集後記**

このたびは、冬の大雪が降り、寒い中、ご来校いただき、誠にありがとうございました。このたびは、冬の大雪が降り、寒い中、ご来校いただき、誠にありがとうございました。

**ボランティア立哨**

2日間行われた近隣の店舗でのボランティア活動の様子です。保護者の皆様のご協力のおかげで、無事終了することができました。ありがとうございました。

**バザー**

文化のつどいでの主催バザー及び募金のご協力ありがとうございました。足元寒い中でしたが、多くの方々にお越しいただき、誠にありがとうございました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

◎バザーによる 収益金175,550円  
◎募 金 9,651円

